

第62回全道造形教育研究大会 in 帯広・十勝特集

<目次>

・大会風景	1〈表紙〉
・大会実行委員長挨拶	2
・大会を振り返って	3
・大会スナップ	4~5
・大会参加者の声	6
・25年石狩大会のお知らせ	7
・地区サークル情報など	8



**北海道
造形教育
連盟報**

No.135 2012.12.1発行
 発行 北海道造形教育連盟
 会長 稲實 順 (札幌市立旭小学校長)
 事務局長 益村 豊 (札幌市立資生館小学校長)
 事務局 札幌市立資生館小学校
 〒060-0063
 札幌市中央区南3条西7丁目1番地
 TEL(011)204-9811・FAX(011)204-9815



第62回全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会を終えて

第62回全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会
運営委員長 辻 敦郎
(帯広市立帯広第五中学校長)

「会場に版画を並べて、たとえば“版画の小径”。そこに机をおいて、ワールドカフェにしたら?・・・」

「美術館、会場にできないかな・・・」

「カフェ形式は話しやすくなるしね、・・・。色々な思いや、造形教育の・・・。実践や、語り合ったり・・・。きっとそれが大事で・・・」

「美術館の石畳、昔フロッタージュ・・・」

「十勝は版画教育の歴史があるので・・・。実践の蓄積もあるし・・・」

「ねね、まず、会場決めないと・・・。机の関係で小学校?・・・。五中でもいい・・・五中」

三年前から徐々に、準備委員会のメンバーを募って、小さな準備委員会でメンバーが額を寄せ合って、プランを話している。準備委員会はやがて月日を経て、運営委員会になり、瞬く間に2年が過ぎました。

運営委員会の偉さは、最初の会合の荒々しく、みずみずしい、アイデアをいつまでも、あきらめず、新鮮なまま、はつらつと、若々しく、斬新に、・・・。やり遂げたことです。

「十年前は美術科出身の校長先生達はそうそうたるメンバーがいたじゃないですか・・・。今は辻先生・・・。しか・・・。いないので」

辻先生しかの「しか」が森にいる角の生えた茶色い動物でないのは重々承知で、「仕方ないので・・・。」という語感をなんとなく感じながらも、私自身運営委員長の重責を楽しめたのは、今回この研究会を企画運営した運営委員達の熱意や仕事ぶりによります。この研究会を創る側に参加できたことを光栄に感じ、皆さんに心より感謝いたします。

■造形教育が学校で孤立しないこと

「世間」から造形教育が何か理解しがたい特別なことだと思われたり、生まれつきの才能で優劣がつく教科と誤解されることを一番に恐れてきました。

芸術を扱うのでどうしても、誤解される危険を意識しなければなりません。

ここで言う「世間」とは、たとえば、今、美術室で絵を描いている中学生が将来大人になって、「美術」を他の教科とは違う特殊な、特別な人たちの限られた活動であると思ってしまうたり、たとえば、教師自身も、学校の中で造形教育が他教科から、指導法や評価の仕方、定期テストの有無を含めて、理解しがたい、近寄りがたい、独特の学力観や、作品をつくるための無計画な教科で、そのことに議論の余地のない教科であったり、または図工・美術の教師が美術準備室をアトリ工代わりに引

きこもり、コミットするべき相手を間違っていたり・・・。

「世間」がそんな風に造形教育を認知すると、造形教育はリアリティーのない実感できるところのない、無用なものになってしまいます。「世間」は家庭であり、地域であり、社会全体であり、私たち教師の目的そのもの、つまり児童・生徒でもあります。

そこで、私たちは大会テーマを「つくるとき・つながるとき」としました。同じ時間を共有する仲間と、社会と、未来と「つながる」それを実感する造形教育を探ろうとしました。また、研究主題を「豊かな心をはぐくむ造形教育」としました。10年前と同じテーマをあえて選びました。「心」からはじまる教育として捉えたかったのです。

私たちは与えられた実の中に住んでいます。それがはたして真の实在かと疑問に思ったときに「造形活動」はどこからかやってきます。小さな生まれたての子どもであっても、成熟した大人であっても知的な精神作用が激しく働きます。「そんな研究会ができたらいいな」と考えました。

■「なぜ今、美術教育か」

全道全国各地より参会いただいた皆さま、関係各位、授業の公開や提言、助言を快く引き受けていただいた各幼稚園、小・中学校、高等学校、大学の教職員の皆様、児童生徒、学生、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。また、この研究大会に当初から深い理解をいただき、特段のご配慮をいただいた道立帯広美術館には重ねて深く感謝いたします。

幸いなことに、自分の学校をメイン会場にすることができました。この大会の成果を語るときに本校職員の活躍ぬぎにはかたれません。

関連事業として行ったワークショップ、岡部昌生フロッタージュ・プロジェクト「O-perperke-p2012森ニイマス」は驚くべき経験でした。

私たちは今日も「森ニイマス」この森は混沌とした「問いの形」です。

「なぜ、いま」という問いの形が貫かれた大会は、それぞれの参加者に重く、深く現在に向き合うことを促しました。

第62回全道造形教育大会帯広・十勝大会は平成24年7月27日に開催されました。それはそれは暑い夏の日でした。この日が皆さまの心にいつまでも残るものであることを願いながら、重ねて心より皆さまに深く感謝いたします。

「つくる」を深める「つながる」大会

～第62回全道造形教育帯広・十勝大会を終えて～

第62回全道造形教育研究大会 研究部・記録部

研究部長 梅津美香

(帯広市立帯広第二中学校)



大会テーマ「つくるとき・つながるとき」

研究主題「豊かな心をはぐむ造形教育」

2012年7月27日金曜日の帯広は、とても「あつい」1日となりました。気温はもちろんのこと、全道各地からお集まりいただいた皆様の造形に対する思いも会場校である帯広第五中学校に「あつさ」をつくりだしていただきました。

造形教育研究大会は子どもの「つくる」を支えるために私たちが「つながる」場です。帯広・十勝大会がその役割を少しでも担えたのであれば大変嬉しく思います。大会当日の様子を一部紹介いたします。

ワールドカフェ「版画の小径」

～子どもたちの作品と共に皆様をお出迎え～

昨年度の札幌大会にならって開催した「ワールドカフェ」。研究大会の中で、少ない人数で多くの語り合う・つながりあう場を大切にしたいとの願いからでした。



会場校体育館を展覧会会場とし、約240点の版画作品の中で「版画の魅力」について語り合っていました。

◇「版画の魅力」とは～皆様のコメントから◇

◆刷り上がりのドキドキ感◆材料の多様性～出会い◆何枚も刷れる～構図も変化させて◇子どもたちに伝える要素が多いので指導者のしっかりとした技術も必要◆◆意外性と偶然性◆達成感◇描画にない心地よさ◇彫ることの楽しさ◇気持ちのこめ方◇技術に頼らない気持ちの表現◆力強さ◇行為そのものを楽しむ→思いもふくらむ◇子ども主義～作品主義ではない◇素朴◇子ども主体の作品づくりを大切にする◇子どもがどうしたいかをくみ取る。

一つの題材を通して、子どもたちの「つくるとき」の大切さを語り合う時間になりました。ありがとうございました。

「つくるとき」を語り合う

～公開授業～分科会～

研究大会の柱「公開授業」。各分科会では「討議の柱」のもと、活発なご意見を頂きました。

「第1分科会 心をうつす（版画・合同）」



公開授業は「搾乳体験」を版画に。子どもたちの今（生活・心）と造形のとつながりと、版の表現について考える分科会でした。

「第2分科会 わたしをつくる（小学校）」

「わたしの木をつくろう」一人一人の感じる「木＝わたし」を様々な素材・技法で表現。造形活動と学級経営についても考えました。



「第3分科会 私をつくる（中学校）」



心を映すランプシェードの制作。手のひらの中の小さな明りを丁寧に作る中で「私をつくる」事を考える分科会でした。

「第4分科会 みんなでつくる（幼稚園・小学校）」



互いの良さに気づき、認め合う造形教育を語りました。

「第5分科会未来へつなぐ（中学校・高等学校）」

美術館で「棟方志功展」を「みる」授業。造形の広がりを考えました。



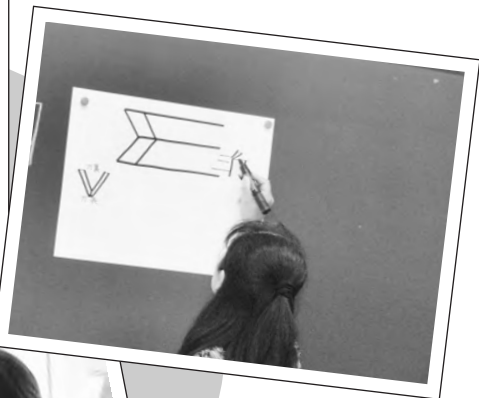
皆様から頂いた造形への熱い思いは研究集録にてさらに詳しくお伝えいたします。

第1分科会 「心をうつす」

「版を生かして「酪農」（版画）
～地域の生活を版で表そう～」

自分の手で触れて、感じて、目で見て、耳で聞き、鼻で臭いを嗅ぐ。自分の郷土に対する気持ちや郷土とのつながりを、版画を通して写出す。

授業者 音更町立下土幌小学校
池田 圭子 教諭 6年



第5分科会 「未来へつなぐ」中学校・高等学校

「美術館で「見る」授業
～棟方志功展～（鑑賞）」

難しいことを考えるより、まずはシンプルに「みる」ことから始めたい。本物の作品を目の前にした生徒の表情や心の動き、つぶやきに教師が寄り添います。

授業者 帯広市立帯広第一中学校
村中 鉄也 教諭 中2

第2分科会

「わたしをつくる」小学校

「わたしの木をつくろう
～1本の木からみんなの森へ～」

「わたしの木」をテーマにした工作にチャレンジ。子どもたちがどんな木を想像して、材料とどんな対話をするのか…一人一人のこだわりを大切にわたしの木をつくりました。

授業者 帯広市立北栄小学校
金子 里奈 教諭 3年



みんなで語り合いたい視点1
「つくる」
「形で語る・色で語る」
～「造形を深める」ということ

第62回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会

大会テーマ

「つくるとき・つながるとき」

研究主題

「豊かな心をはぐくむ造形教育」

みんなで語り合いたい視点2 みんなで語り合いたい視点3
「つながる」① 「つながる」②
「学びの場」 「研究・研修」
～学級づくりと授業について ～教師もつながるといふこと



第4分科会 「みんなで作る」小学校

「紙のフラワーロード
～特別なONLY ONE」

身近にある素材「紙」を使い、その特性を感じながら「花」を立体に。素材を選んで作る楽しさを、美しい色合いで並べることの良さから、普段の生活に彩りを添えていく。

授業者 帯広市立広陽小学校
岩村 美希 教諭 6年

第3分科会

「私をつくる」中学校

「心をうつす
～ランプシェードの制作～」

自分が創り出す作品はもう一人の自分。それぞれの「心」を映し出すことが今回のテーマ。光と影によって映し出される自分の思い、気もち、心。この授業を通し、自分をあらためて見つめ直す。

授業者 幕別町立札内東中学校
神下 朋美 教諭 中2



第4分科会 「みんなで作る」幼稚園

「みんなで作ろう
～葉っぱのお皿づくり」

子どもたちは様々な経験からたくさんアイディアが生まれ、大人には想像の出来ないものを作り出す力が…。キラキラと目を輝かせながら作り出す姿に感動!!

授業者 学校法人みどり学園帯広第二ひまわり幼稚園
鈴木 みなみ 教諭 年長



大会参加者の声



参観授業名「みんなでつくる」幼稚園 ～葉っぱのお皿づくり～

学校法人 旭川学園 旭川幼稚園 澤野 郁恵

毎年本当に暑い日に行われる造形教育研究大会。私共は今回で4年続けて園全体で参加させていただいています。

今年も猛暑に負けず元気に活動する帯広第二ひまわり幼稚園の園児たちと優しい先生方の保育を見せていただきました。ありがとうございました。

幼稚園教諭は造形のみならず何でもしなければならぬのでその分野をなかなか深められずにいます。美術専門の先生方の中に入れていただき学習できることの大会は、幼児の造形表現について考えるよい機会です。

新たな素材の発見をしたり、表現の意味を考えたり…

当園の造形活動は大会に参加させていただいた事により、大きく変化しました。これからも子どもたちの心に「きれい」や「たのしい」が残る造形活動となるような学習をしていきたいと思ひます。今後共ご指導よろしくお願ひします。

ステキな授業からの宝物

砂川市立北光小学校 舘山 恭子

「じっくりとひとつの授業」ではなく、いろいろな授業を見せていただきました。どの授業もきめ細かく準備され、子どもたちがいっしょうけんめいに取り組む姿がみられたと思います。子どもたちのいい表情がたくさんありました。

この日の授業はもちろんですが、この一時間の授業のための長～い準備期間、学級づくりなどもふくめて本当にお疲れ様でした。でも、この準備の期間こそが、指導者にとっても子どもたちにとっても、とても有意義な時間なのだと思います。

毎年、全道造形に参加することを楽しみにしています。全道各地の先生方の実践から刺激をうけ、「また明日からがんばろう」という気持ちをもらえるからです。

運営にあたられた方々、大変お疲れ様でした。そしてありがとうございました。



参観授業名「わたしの木をつくらう ～1本の木からみんなの森へ」

旭川市立愛宕小学校 大山 みのり

ただじっとしているだけでも汗が噴き出してくるような夏の暑い教室の中、真摯な態度で「わたしの木」と向き合い、活動に取り組む子どもたちの姿が印象的な授業でした。小学3年生にとって、自分と関わりのある人や自分のよさ、好きなことなどを明らかにし、自分を見つめ直すことは、そう易しいことではありません。しかし、子どもたちは、描いた構想図をもとに想いをふくらませ、材料の質感や素材の特性を考えながら、自分の分身ともいえる「木」をつくり上げていました。

「造形活動から学級経営をどう考えるか」ということが、分科会の討議の柱の一つに挙げられていました。互いのよさに気づいたりよさを認め合ったりする活動は、まさに学級経営の根幹であることから、造形活動からアプローチできることやその可能性を再確認することができてよかったです。ありがとうございました。

美術館で「見る」授業～棟方志功展～を参観して

札幌市立屯田南小学校 松本 和彦

近年、鑑賞の授業を通じて自分の思いを表出することの大切さが言われていますが、村中先生のシンプルな提案には私も同感です。何よりも、本物に触れるとことができるのが素晴らしい体験です。写真では感じ取れない制作者の思いを自分らしく受け止めていた子どもたちは幸せ者ですね。和やかな雰囲気の中にもピリツとした空気が流れていたのが印象に残る授業でした。



【第63回全道造形教育研究大会 石狩大会】

開催期日 2013年7月29日(月)～30日(火)

会場 石狩市立緑苑台小学校

【研究主題】

「豊かな心と確かな力を育む造形学習を！」

～おもな内容～

授 業

☆幼稚園・小学校・中学校の授業を公開します。
☆石狩の「育みたい力」をもとにしながら、子どもの「こうしたい！」
が生まれる授業を提案します。

提 言

☆提言は、「もう一つの公開授業」
☆全道のすばらしい実践を交流する場とします。

講 演

☆「授業づくり」に焦点をあてた講演を予定しています。
☆2日間とも講演を行う予定です。貴重な時間になることと思います。

実技研修

☆対話による美術鑑賞、アートカードを使用した美術鑑賞、ギャラリ
ートーク、絵の具を使う、粘土を使う・・・etc。（すべて予定）
☆充実した実技研修になるよう準備しています。

DVDve

☆2008年北広島大会の時に作成したDVD「かく、つくる、みる」
をバージョンアップしたものです。
☆各校で活用していただけると嬉しいです。（販売します。）

*一次案内は、12月発送予定です。

旭川市教育研究会図工・美術部の活動紹介

旭川市立光陽中学校 吉野 法行

旭川市教研図工・美術部は、昨年度より新研究に移行し、さらに研究体制を大きく見直しました。研究では、大きく「深める研究」と「広める研究」と2つの研究を両輪として実践に取り組んでいます。

まず、「深める研究」では、『「わたし」の喜びあふれる造形活動』というテーマで、小学校から中学校までの9年間を見通した、小中連携の授業実践を中心としながら、育たい力を明確にして、子どもたちの力を伸ばしていこうというものです。そのために、研究体制も小中で分けるのではなく、地区ブロックに分け、小学校と中学校の先生方が一緒になって、授業について深めています。

次に「広める研究」では、このままいけば図工美術が縮小されるという危機感をもって、どうしたら、少しでも地域や社会に認知・啓発できるかという視点で取り組んでいます。具体的には、自分たちのサークル外の先生方にも呼びかけて、「実技研修会」や「作品交流会」を企画したり、旭川が先進的に取り組んでいる、美術館や大学との連携を活かしながら、様々な企画に取り組んでいます。旭川としては、単なる花火ではなく、持続可能な活動になるよう組織体制から組んでいるところが、強みなのではないかと思っています。

取り組み全てを紹介するには、紙面が足りませんので、ぜひ2年後の全道大会にお越しください。その一端をお見せできると思います。



彫刻巡回展出前授業

造形まつり2012

教育美術展審査研修会を終えて

11月14日札幌市立旭小学校にて教育美術展の審査研修会が行われた。12月27日・28日に行われる審査の基準をもとにした研修会である。昨年の奨励賞の作品をもとに、選ばれた要因を探りながら、基準を改めて確認していく。「きっとこの子は、消防車を見た時の感動をたくさん伝えようとしているよ!」「フムフム 子どもの声が聞こえてくるぞ!」などやはり子どもが見えてくる作品にどの先生も共感する姿が…。



テーブルを囲み熱い論議が・・・

今まで基準をもとにしていくのはもちろんのこと、審査の基準であるこの『のびのび』とはどんなことなのか…集まった先生方で意見交流し、研修し合う姿が教育美術展の質を高めていくのである。

134号でもお伝えしましたが今年は札幌市立旭小にて行います。都合の付く先生方はぜひ審査研修会に参加し、全道各地から集まる子どもの作品を通して力量を高め合いませんか!ぜひお待ちしております。



あ と が き

全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会が大盛況のもと終わりました。今年はオリンピックイヤー。ロンドンオリンピックでもおわりの通り、個人の技量はもちろんのこと、チームワークの大切さをたくさん感じたことと思います。『つくるとき・つながるとき』という大きなテーマのもと、**あったかな**造形教育を発信できたのも帯広・十勝の先生方をはじめチーム北海道の団結力のおかげです。来年度の石狩大会もあったかい研究大会となるよう力を結集させましょう。

最後に、連盟報発行にあたり、原稿執筆にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

<北海道造形教育連盟 広報部> 小林 充 裕・本 多 隼 人・櫻 田 悟・松 本 和 彦